

## 運動の柱 1 伏見の防犯に関心を!

共通の視点

～あなたの防犯への関心が自分を、地域の人々を守ります～

もっと安全で安心できる伏見区をつくるためには、地域に関わる全ての方が防犯を自分のこととして捉え、犯罪を行おうとする者に犯罪の機会を与えないことが重要です。

「車や家を離れるときは、少しの間でも鍵を掛ける」、「自転車・オートバイには、鍵を2個以上かける(ツーロック)」といったことのほか、「詐欺についての知識を持つ」など、一人一人の小さな取組が、犯罪から身を守ることに繋がります。

また、犯罪に対する知識の共有等は、犯罪被害に遭いやすい子ども、女性、高齢者等を守ることに繋がります。

防犯の主役は、あなたです。

### 取組例

#### ★ ステップ1 ★

##### ① 犯罪に対し、十分な知識を身に付ける

防犯講座や防犯情報をチェックするなど、防犯に関する知識を身に付けましょう。

例えば、振り込め詐欺など特殊詐欺被害に遭わないようにするには、犯罪の手口を知り、心構えを十分にしておけば、いざというときでも、冷静に対処することができるようになります。

犯罪被害に遭わないための知識は、区民のみならず、事業者の方にも役立ちます。

※ 区役所・支所や警察署は、防犯講座の開催やタイムリーな防犯情報の提供を一層推進します。



##### ② 防犯チェックシートを活用する

区役所・支所は、区民の皆様が、自宅や会社等の防犯体制を見直していただくためのチェックシートを作成し、お配りします。チェックシートで防犯に関する新たな気付きがあるかもしれません。

##### ③ 家族や友達等と、防犯の知識を共有する

区民一人一人が防犯の知識を共有することによって、家族や友達等が犯罪被害に遭いにくくすることができます。特に子どもたちには、日頃から犯罪被害に遭わないための話をしていただくと、子どもたち自身の意識が変わります。

更に、子どもたちから防犯に関わる新しい情報を聞くこともあるかもしれません。

※ 今後、学校での防犯講座などを行い、子どもたちが犯罪被害に遭わないための知識の習得や自分の身の安全を守る対処方法を身につけるための安全教育を行っていきます。

#### ④ 鍵を掛けるなどの自己防衛を行う

自転車に、二重に鍵を掛ける(ツーロック)。

在宅時であっても家に鍵を掛ける、少しでも車を離れる際は鍵を掛けるなどの小さな取組が、自分の財産を守ります。みんなで取り組むことで、犯罪の機会を与えず、地域の皆さんを守ることになります。



### ★★ ステップ2 ★★

#### ○ 防犯啓発活動を行う、参加する

青色回転灯パトロールカーによる防犯パトロールや、駅等の交通の拠点、商業施設、観光地周辺等での防犯啓発活動と一緒にやってみませんか？

新しい人との出会いが活動の輪を広げることもあります。

※ 警察署を中心に防犯に関する情報提供等を引き続き行うとともに、防犯パトロール等の防犯啓発活動を推進します。



### ★★★★ ステップ3 ★★★★★

#### ① 防犯設備を導入する

防犯設備を導入し、防犯性能を強化しましょう。

例えば、家屋や店舗の鍵や窓ガラスを頑丈なものにするなど、建物への侵入を防いだり、壊されにくい、盗まれにくい状態にしましょう。

車についても、警報装置、ハンドルを固定する盗難防止装置など、様々な対策があります。



#### ② 防犯講座を開催する

警察署等から講師を招き、地域で防犯講座を開催しましょう。

また、防犯講座を受講し、防犯知識をしっかりと身に付けられた方は、自ら講師となり、防犯講座を開催すると、より多くの方に防犯情報を広めることができます。



## 運動の柱 2 伏見の地域に関心を!

## 共通の視点

## ～防犯は声掛けから～

泥棒が犯行を諦めた理由として、「声を掛けられた」「じろじろ見られた」と語った例があります。住民間のコミュニケーションが活発で、見知らぬ人に注意を払う地域コミュニティは犯罪者を遠ざけます。

区民一人一人の地域への無関心が犯罪の温床になります。犯罪者を寄せ付けないためにも、みんなで地域コミュニティの活性化に取り組みましょう。

## 取組例

## ★ ステップ1 ★

## ① 地域の方々と積極的に挨拶をする

普段から積極的に挨拶し、地域の方々と顔見知りになりましょう。

地域でのコミュニケーションが活発であれば、不審者に気付きやすくなります。



## ② 散歩をする(ながらパトロール)

周りを見ながら歩くことや、挨拶することは、見知らぬ人に注意を払うこととなります。

こういった動きは、自然監視と呼ばれ、間接的な防犯効果があると言われています。

また、小・中学生の登下校時間に合わせて「ながらパトロール」を行うと子どもの見守り活動にもなります。

